

第 3 9 回

奈良市クリーンセンター建設計画策定委員会

日 時：平成 2 3 年 4 月 2 7 日（水）

午後 6：0 0～

場 所：人権啓発センター 3 階大会議室

次 第

開 会

1. 議 事

- (1) 第 3 8 回策定委員会議事録概要版の確認
- (2) 施設整備のあり方について
- (3) その他

閉 会

(事前配布資料一覧)

資料 8 1 第 3 8 回策定委員会開催概要及び議事録概要版 (案)

資料 8 2 施設整備のあり方について

奈良のごみ問題を考える

～あるべき減量化施策と処理施設～

第39回策定委員会開催概要及び議事録概要版

件名	第39回 奈良市クリーンセンター建設計画策定委員会	
日時	平成23年4月27日（水） 18:00～20:21	
場所	人権啓発センター3階 大会議室	
出席者	委員	今井範子、片山信行、木内喜久子、阪本昌彦、佐藤真理、田中啓義、田中幹夫、古海忍、三浦教次、元島満義、森住明弘、安田美紗子、山口裕司、吉岡正志、渡邊信久 (國領弘治、笹部和男、高杉美根子、坊忠一、山口清和、吉田隆一委員は欠席)
	事務局	息田部長、阪本次長、吉住参事、西山室長、堀課長、村田課長、美馬主幹、平木主任、田中
	コンサル	
開催形態	公開	
記録作成者	奈良市施設課	
配布資料	資料81	第38回策定委員会開催概要及び議事録概要版（案）
	資料82	施設整備のあり方について 奈良のごみ問題を考える ～あるべき減量化施策と処理施設～
会議内容		
<p>開 会</p> <p>部長挨拶</p> <p>1. 議 事</p> <p>(1) 第38回策定委員会議事録概要版の確認</p> <p>(2) 施設整備のあり方について</p> <p>(3) その他</p> <p>閉 会</p>		

議 事 要 約 内 容	
事務局（美馬）	<ul style="list-style-type: none"> ● 定刻になりましたので始めさせていただきます。 本日は大変お忙しい中、ご出席を賜り、誠に有り難うございます。今回は奈良市クリーンセンター建設計画策定委員会の第39回目の会合です。どうか最後までよろしくお願い致します。 委員会開会にあたりまして、息田環境部長よりご挨拶を申し上げます。 「部長挨拶」
息田部長 事務局（美馬）	<ul style="list-style-type: none"> ● 次に本日の出席状況です。委員総数21名の内14名ご出席頂いており、本日の委員会は成立していることをご報告申し上げます。 議事の進行につきましては渡邊委員長にお願い致します。
渡邊委員長	<p>1. 議 事</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 環境清美部が環境部になったということで、産業廃棄物を指導する側が一緒になったということですね。では、本日の資料確認からお願いします。
渡邊委員長	<p>(1) 第38回策定委員会議事録概要版の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 何かお気づきのことがございましたら、ご指摘頂きたいと思います。特になかったら、この会議が終わりしだい、確定版とさせていただきます。
A委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 6ページの、私の発言の中で、一番最後から⑥-2の候補地で農地の問題が現在残ってます。農地は法人が取得しているはずですが、農地法の世界では、農地のままです。実際耕作されてる方もおりますし、荒地になっている場合がございます。法人が取得して10年以上経ってますので、この地目上の農地に、小作権がすでに発生しております。もし⑥-2をご検討頂く場合には、売買は終わってますが、所有名義あるいは地目転換等はできてませんので、この地域を加工しようとした場合、小作権の削除手続きといたしますか、再度知恵者の農地の所有者であれば7割位の土地代を請求された場合、その辺の金についての処理が必要になってくると思います。それは避けられませんので、十分検討した上で対応頂きたいと思います。
渡邊委員長	<ul style="list-style-type: none"> ● 解説を加えて頂いた訳ですが、議事録概要版の修正ということではないんですが、非常に重要な情報だと思います。農地だということによる、法的、制度的な面で、非常に深刻なものであるというお話ですね。議事録で直すというよりは、今日、解説があったと形にするほうが正確かと思いますので、議事録概要版を作るときに、入れておいて頂きたいかと思います。皆様、それでよろしいでしょうか。 (全員承諾) <p>(2) 施設整備のあり方について</p>

渡邊委員長	<ul style="list-style-type: none"> ● 本日は、田中副委員長から、奈良のごみ問題を考える、あるべき減量化施策と処理施設ということで、奈良弁護士会を取りまとめて頂きました、小冊子がございます。今日はこれを使いながら学習会を用意して頂いております。では田中先生、よろしくお願いします。
田中副委員長	<p>「学習会内容」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガス溶融炉、バイオガス、外観、学習施設等の施設に関すること。 ・家庭系ごみの分別と有料化について。 ・事業系ごみの分別、許可業者等について。 ・家庭系ごみの有料化と事業系ごみ、許可業者に関する質疑
A委員	<ul style="list-style-type: none"> ● ご報告ありました奈良の事業系ごみについては、40社と言われましたけど、48社ということ訂正させていただきます。問題としては、ごみの分別・収集が1車の場合は中々現実としてはできないと業者側から言われているようです。
渡邊委員長	<ul style="list-style-type: none"> ● 神戸の話が出ましたので、分別が不思議なくらいうまくいってる理由は、収集の方が全部持っていきません。混ざりものがありますとかいうシールを貼っておくんです。収集日の夕方でも、ごみが集積場にいっぱいあります。シールが貼ってあって、プラスチックに生ごみが入っていますとか、色々書いてある。1週間位はあるみたいです。暫くさらしものにしてから、収集されてるみたいですが、非常に効果がありますし、収集する人は、自分が分別の責任を持っているという自負をもってやられていて、全部持っていかないと文句言われるという状態では、今はないんです。状況がよくなっていくのはいいかと思います。
B委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 奈良市でも厳しく持っていられない場合もあり、きちっと見られてると思います。61頁資料5に、奈良市の10年程のごみの減量状況を示されています。平成10年から19年の間に、一人あたりの排出量が2割位減少しています。かなり意識高く減少してる感じが致します。神戸市の場合は人口も多いですし、そういうふうにごみの減量化のために有料化していくのは、あまり美しくはないと思うのです。できるだけ生活者が意識高くしていく姿が本来かと考えるものですから、奈良市の場合は、有料化が、一層減量化につながるかどうかはよく検討して、慎重に捉える方がよいかと。
元島委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 私、福井県春江町に、約10年位住んでいたときに、スーパーで有料の袋買って、袋に名前も書いて、市町の袋を買わないと、家庭のごみなんて捨てられない。市民も、小さな町で、意識は高かったです。奈良市でも、某町に住んでますが、順番制で、シート置きにいく人が決まってるし、奈良の職員の皆さんも、これは持って帰りませんとシール貼ってあります。そのシールは、貼ってあるのは誰が出したか、その町では分かりませんが、3日位経ったらなくなるといことは、誰が出したか意識してるから、きっちりしている当番の人は、持って帰るように指示しますし、意識は奈良の市民もお持ちのようです。

渡邊委員長	● 何であんなに、ごみ持ち込む人いっぱいいるんですかね。
元島委員	● 料金をお払いしてでも整理整頓したいという意識からじゃないでしょうか。
渡邊委員長	● 自分で自動車を持ち込む量が非常に多いというのは、この会議に入れてもらったときの、最初の驚きで、今でも、謎が解けないというか。
元島委員	● 奈良の市役所の職員の皆さんも、回収のときに、分別の意識を持ちながら、持ち帰れませんという意識は持ってラベル貼ってるということを皆さんに知って頂くために申し上げました。
三浦委員	● これを何回も私読ませて頂いてたんですが、非常によくできてると思います。最終的にはリデュースということが求められると思うんですが。世の中が逆行しているようで。過剰包装、緩衝材とか、ごみが出る世の中に、なってきたのかと。リデュースができなかったものは、リサイクルとか、リユースとかいう形で、利用の仕方はある訳ですが、只、究極リデュースを求めるのであれば、もっと社会全体、あるいは市民全体で、議論をしないといけないと思います。行政だけが一方的に、こうしますと言っても難しい。それと高齢化がどんどん進んできてますから、9種12分別はちゃんと分けられない。あるいは集積場まで持っていけないという状況も出てきてます。逆にいっしょくたにして燃やしてくれという話もある位です。それは世の中に逆行しますし、最終的にリデュースで焼却施設も、極力容量の小さいもので、環境にも影響しないものがあると思うんです。それと、有料化の話で、私、清掃業務審議会にも入りますから、検討して、有料化することは、内々承知してるんです。その当時、職員に不祥事が生じたから、有料化したんでは、市民のコンセンサスが得られないということで、待ってたんですが、その後、世の中不景気がずっと続いてまして、市民に新たな負担を求めにくい。それと、有料化によって一時的にごみは量として少なくなりますけど、リバウンドするケースもありますから、有料化によってごみが減ったということを結論づけられないこともあります。慎重にということで、今、有料化について凍結している状況です。
渡邊委員長	● 有料化でごみが減るっていうので、さっきの神戸の28%というのは、これは神戸市もびっくりしたんですが、最初からかなり減るという見込みもありました。理由は古紙なんです。新聞紙・ダンボールとかの収集の仕組みを市は作ってなくて、民間業者が不定期に回るという形だったんです。事業者としてはダンボールの箱でも何でも雑誌でも、すべて袋に入れておけば市が収集してくれるというところから、袋にいれると一つ250円くらいかかるということで、多くは古紙回収にいったんです。平成20年頃ですから、中国が、古紙をどんどん買ってくれる時期でしたから。そちらに流れた状況もあります。ですから、28%というのは、古紙回収ルートというのがしっかりしてなかったものが、整備されたというのもあったと思います。
	今、分別と有料化の話で皆様からご意見がありましたけれども、施設に関することはいかがでしょうか。

A委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 有料化については、環境問題を中心にやってきました、県下の市町村別の統計数値を、10数年手元に持ちながら分析して言うんですが、奈良市の一人あたりのごみの質量ですか、現在一日あたり800グラム。奈良市が分別収集によって成功したと見てました。820、30くらいの水準であれば、いい水準にきてるのかなということです。それで有料化検討委員会でも、この数字の推移を見て、これを更に減少させるのは、制度の組み立て、指導が大変厳しい、難しいということで、委員会では時期尚早という結論を出されたと思うんです。人が排出する量は減ってる。果たして有料化を導入してもインセンティブが働いて減少するかという問題は、確実には見込めないだろうという感じはしています。この水準まできてるんで、新たにどういう施策を組み立てるかという、新しい施設を造るときに、市民にきちっと協力や伝達、こういう施設なんだという意識をよほど徹底しないと、更に減らすということは難しいかなと思ってます。
渡邊委員長	<ul style="list-style-type: none"> ● ごみを減らすことについて、まとめを頂いた訳ですが、田中副委員長からはバイオガスを徹底的に利用しながら、小規模な焼却というご提案がある訳ですが、焼却施設を小さくすると、発電については見込めなくなるということは、10%とか15%の発電は、ある程度大きくないとできないことは、ご承知おき頂きたいと思います。100トン位の規模ですと10%発電は難しいと思います。奈良市の場合は、もう少し大きいかもしれませんが、現状から減らしますと発電ということでは、環境省からの交付金などの要件を考えますと、難しい領域に来ているように、感じてます。 他、施設や、施設を整備するにあたって周辺はどうあるべきだとか、ご発言を頂けたらと思います。
三浦委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設の方ですが、関東を含めて視察も繰り返しています。その中で、奈良市のパッカー車が走るときにおしりを開けて、車も汚い。ところが関東の方へ行きましたら、外に出るときは必ず洗車して、おしりも閉める。焼却施設内も全部隔離されて、臭いが外に漏れない。ところがここは開け放しですから、臭いが出る。そういうイメージ的な問題が、奈良の施設あるいは環境に関わるものの意識が低いのではないか思うので、まずそこから始まるんです。あと、本当に教育的な施設が多く、環境の勉強をするのに、すばらしい施設です。ピットを除いたらほとんど教育施設。ごみを燃やすところだけは、どこも変わらないんですけども、それ以外は、教育施設的な要素があって、こんな施設だったら、誰も近隣の方も文句言わないだろうという気がします。それと、煙突も大体100m越すような高い煙突を持っています。そうすると排気ガスが拡散され易い。余熱利用についても、サマールリサイクルがほとんどですが、近隣に福祉施設、スポーツ施設があって、そこにお湯を供給するという形です。さらに、農業研究所に熱を送って、野菜の研究などされてました。今の清掃工場だけがあるというところとは雲泥の差だと思います。将来、奈良で造る場合は、バッファゾーンは当然ですが、その地域内は、色んな余熱利用した還元施設がある。それ

渡邊委員長	<p>も場所によっては、農業にもっと余熱とか電気使っていけるような形の発想は必要だろうと思います。</p> <p>● 現状で存在してる地元還元施設という以上の施設。色んな目的で、多くの人が集まる施設ということで、お話してもらいましたが。他、いかがでしょう。</p>
森住委員	<p>● ソフトの議論に入りますと、議論に参加する人は、割と関心がありますから収まっていくんですが、政策を実践するというと、関心の持ってない方にも、答えてもらわないと成功しないです。ここは特に移転の委員会では他の委員会は皆ある訳です。そこでの連携がとれてないと各個別の報告がいっぱい出てくるでしょ。今まで、焦点が絞ってましたから、議論がまとまりましたけども。こういう拡散した議論になりますと非常に難しい。色んな論点があるうちのどれに焦点を当てるのか。皆が合意出来るような方向に議論進めていかないと、私達が何をしてるのか分からなくなります。そういう意味で渡邊委員長、是非舵取りをお願いします。</p>
渡邊委員長	<p>● 難しいですね。施設をこれからどうするかとか、地域との関係をどうであるかになるべく話をもっていきたいんですけども、いかがでしょうか。田中副委員長、今お話頂いた中で強調したいこととかございましたら。</p>
田中副委員長	<p>● 色々こちらにも意見をお聞きしたいことあるんです。バイオガス化の技術です、どこまで奈良市でいけるのか。委員長の意見も委員の方々の意見も聞きたい。市からも聞きたい。後は、夢を持った処分施設、地元還元あるいはそれを超えた教育施設、循環型の、それ自体でも地球を手にとって見れるような施設、そういう夢のある話をして、少しでも実現できたらというのがあります。</p>
渡邊委員長	<p>● 私見も入るんですが、バイオガスが出ることは、よく言うんですけども、ガスを出した後の液体と固体が残るんです。特に液体は、肥料として有価で買ってくれる人あまりいませんで、日本国内でバイオガス事業として、私の聞いている範囲ではうまくいっているのは北海道の非常に広い牧草地帯があるところで、撒いて誰も文句言わならしいんですけど。京都で液肥をどうしてるかってあまり聞かないと思うんです。この問題がクリアできないと、先へ進めないと思っております。あとガスとして出てくるエネルギーも、元々中に入っている炭素が二酸化炭素になることによるエネルギー差。これは燃焼によって出てくるエネルギーです。バイオマスの場合は炭素が一旦メタンになり、それが燃えるからエネルギーになるということですけども。その効率が、燃焼によって出てくるものよりも、少ないんです。只、バイオガスのいいところは水分のいっぱい入っているところから、効率よくエネルギーを引き出すことができるということで、液肥の問題と、常に同じ効率でガスが発生するか。これも微生物任せで、機嫌をとるのが難しいというのを聞いたことがあります。大規模なものでバイオガスの施設を造るというのは、まだまだ開発段階と感じております。</p>
吉岡委員	<p>● この策定委員会、大きな仕事一つ終わり、これから何をやっていくのかを議論しないと、放談会に終わってしまう可能性もあります。何について検討・協</p>

森住委員	<p>議して、どういう結論を出して、市に持っていくかをまず決めないと。有料化問題・ごみ減量とかは今まで検討され、一定の方向も出てますから。どういうごみ焼却施設を造るということにすれば、何トンの処理能力とかいうことで、将来を見通したごみの推移も検討しだすと、別の委員会になってしまいます。それもやるのか議論したらどうかと思っています。</p>
渡邊委員長	<p>● 吉岡さんの意見は、その通りですけどね。今これだけたくさん議論出ている中で、私達はどこに焦点を当てて議論をするのか。このところを皆で議論するのが一番大事やと思います。バイオマスについて補足しますと、バイオマスは生ごみのメタン発酵です。生ごみは水分が約8割5分です。15%ぐらいが固形物で有機物です。残りの8割の汚れた水分が残るんです。これをどうするか、下水に放り込むか、液肥として、畑に撒くんですよ。そしたら撒ける農地があるのかという議論になる。私達が基礎知識としてメリット・デメリットをここで学習するところに留めまして、別の議論に持っていくといいと思います。</p>
B委員	<p>● この後、市長と地元と会合を行ってどういう話があったか報告を受けることになってます。今日は弁護士会さんのほうでまとめて頂いた、奈良市の状況と全国の中での位置付けというのを報告頂きました。どうしても皆さん減量の話や有料化とか分別の話になってしまうのは困っているところなんですけども。</p>
渡邊委員長	<p>● 今日のはじめの学習会で田中副委員長が、どの位の規模の施設を造るのか、そういうのにごみの有料化と減量化が、施設の規模と関連するという文脈でお話された訳ですね。そのあたりに関連して有料化についてお話していて、全体として共通認識をしながら進んでいると思います。</p>
渡邊委員長	<p>● ガス化溶融について、批判的な意見が田中副委員長からあったんですが、私個人的には、ガス化溶融の全部がだめと言うつもりはないんです。焼却灰の行き先の話を抜きにすると、単に燃やして埋めるだけのストーカ方式が、シンプルでいいんですが、その後どうするかということまでを考えないと議論はできないと考えてます。施設の処理の方法とかで、特に発言ないようだと、それ以上は展開できないんですが。特になければ3つ目に移ろうと思います。</p> <p>前回3月2日、移転に伴って、地域整備に関わる予算的な処置も関連する事項については、市長と地元と直接話し合いを持つべきだということで、お会い頂いたことの報告受け、これからどうするか話し合いをしたいと思います。</p>
事務局（吉住）	<p>(3) その他</p> <p>● 3月2日の第38回策定委員会で候補地を2カ所に選定された旨の報告を取りまとめて頂きまして、同日、渡邊委員長と田中・安田両副委員長から市長に報告を致しました。引き続き、委員会より記者発表を行って頂きまして、新聞報道等に掲載された記事は、事前配布資料として、お送りさせて頂いています。3月7日には、報告書の全文を奈良市ホームページにも掲載させて頂いています。</p>

	<p>4月20日に吉岡委員にお願いし、東部地区自治連合会長の方々にお集まり頂き、市長から副市長同席の元、クリーンセンターの候補地選定に向け、地域の皆様方のご理解とご協力について、お願いをさせていただきました。</p> <p>市長からお願いした内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 一、今後は市が前面に立って、地元との話し合いを進めていきたい。 二、大きな問題意識を持って取り組んでいきたい。 三、庁内調整会議を設け、特に重要な道路問題、環境問題、地域還元対策等の具体的な提案をすべく検討を進めていきたい。 四、連合会長の皆様には、今後も意見交換をお願いしたい。 <p>東部地区自治連合協議会の意見</p> <ol style="list-style-type: none"> 一、道路問題の解決策の提案がないかぎり話し合いに応じられない。 二、クリーンセンターができれば更に過疎化が進行する恐れがある。 三、道路問題が解決できても、即、建設に同意するという事ではない。 四、東部の将来像を示してもらって、受け入れるかどうか判断する。 <p>奈良市の今後の対応ですが、重要な課題である道路問題は、交通量調査としての、社会実験の実施を予定しているのと、建設計画に伴う庁内調整会議という組織を作っており、この道路部会において、現状道路における課題の抽出、対応策を検討していきたいと考えてます。</p> <p>庁内調整会議で、東部地域の具体的な活性化対策など、提案できる内容について、併せて検討していきたいと考えております。尚、この件につきましては市長から、特に早く進めるようにという指示も受けております。</p>
吉岡委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 正確に報告されてると思います。特に東部の自治連合会長は、道路問題が先決。この解決策を持ってこない限り、話には乗れませんよと。併せて将来の地域の振興策ですね、過疎が進む、若い者が出て行く、そういう状況があるので、解決しておくべきだけれども、道路問題が解決したから、すぐ話し合いに乗るという訳ではございませんよと。2つ大きな扉を開けると、中々話に乗って頂けないということです。
渡邊委員長 事務局（吉住）	<ul style="list-style-type: none"> ● 道路は工事をどこでどうするか、そこまで踏み込まないんですかね？ ● 道路問題につきましては、実際にクリーンセンターが東部地域に来た場合、どれくらい通過台数が増えるか、車を用意して、どういう渋滞状況になるか社会実験をしたいと思ってます。般若寺交差点から候補地の間の国道369号線ですが、カーブが多く急勾配になっており、改めて現況調査をし、道路部会で整理して、実現性も合わせて検討させて頂いて、その結果は、東部の連合会に、報告させて頂いて、話し合いを進められたらと考えております。
渡邊委員長 事務局（吉住）	<ul style="list-style-type: none"> ● 道路に関するところは急がないといけないので、いつ頃ですか。 ● コンサル委託出させて頂いて、6月末位に社会実験を行い、現況把握し、整

<p>渡邊委員長 事務局（吉住）</p>	<p>理は8月末位までかかり、9月頃には方向性を出せればという目標で進めていきたいと考えてます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 次に市長が東部自治連合会と顔を合わせて話をするというのは10月？9月末？ですか。
<p>三浦委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 9月にするとかいうのは、中々申し上げられないですが、できるだけ早く地元の方にお話させて頂いて、その経過は、策定委員会にて、ご報告させて頂ければと考えてます。
<p>田中副委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 前よりかなり重しができたというか、仮に道路問題が解決しても、そのあとに慎重に対応したいということですから。369号線の4車線化は、ノーやと言ったら、全然テーブルにつかない話ですから。そのノーに対して、イエスに変えさせるためには、どういう手立てが必要なのかを、庁内調整会議で本格的に検討する必要があるんじゃないかと。役所の人にもう少しがんばってほしいなと思います。
<p>渡邊委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 4車線というのが無理だということは、地元の方も、分かって頂いてる気がするんです。それに代わる道路について何らかの提案をするという、言ってみれば道路について条件的に低くなってるので、地元の活性化を合わせてというシフトしてきてるという見方はできないんですか。積極的に道路についてここまでできるんだということと、地元の振興策について、誠実に対応していくと、希望的に考えられないのかどうかですけど。
<p>森住委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 道路について一通り調査もおこなってきて、4車線化は制度上無理だということで、一応落ち着いたと思うんです。般若寺交差点と369号線について、社会実験というのは確かに新しいことかもしれないですが、道路だけでは行き詰ってしまうので、地元の活性化とも併せた提案をしていかないと、中々同じテーブルに乗ってこられない印象があるんですが。
<p>渡邊委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 行政の解決システムの問題ですが、地域の代表者の連合自治会長さん6名位と行政とお話されて、この意志形成過程が東部の全住民の方にはいかない。行政とその方達だけで解決しましても、プロセスが見えなかったら、中でまたもめるんです。その結果を、全住民に知らせない限りは、多分状況変わらないと思うんです。行政と住民が対応する場合に、今までと同じような意思決定の仕方ではらちがあきませんから、工夫をお願いしたいと思います。
<p>事務局（吉住）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 市長と地元とで、話し合いをするようになったことは、この新聞記事では分からないですね。今まで委員会で選定もそうなんですけども、道路なり地元活性化について、市役所が予算的権限を持ちながら、活動しますという宣伝広報はされてないですか。
<p>事務局（吉住）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 道路問題につきまして4車線化は検討したけれども難しいと、委員会の委員さんも参加頂いて、東部の方にお話しさせて頂いた経緯はございますが、広報まではいってないで、策定委員会の議事録概要版は、ホームページのせらせていただいています。今まで検討してきたのは、県庁東交差点から青山までの都計

<p>森住委員</p>	<p>道路の4車線化が非常に難しいというお話で、4車線化が可能かどうかという検討をさせて頂いて、結果的にB/Cも含めて難しいという結論を出して、東部の方にお話させて頂いています。特に般若交差点から東側の国道369号線について、カーブ、急勾配が多く道路事情が悪いというお話もあり、これについて今年度で改めて調査・検討したいということです。</p> <p>通過交通1,350台/日で計上するにあたり、ハード対策もちろんですが、ソフト対策で対応できないかというのも今年度併せて考えていきたいと。ハード対策で全てクリアできたらいいですが、難しいというのも想定されますので、ソフト対策も併せて検討し、両サイドから今年度は整理し直したいと考えています。</p> <p>● その声を地元の全住民の方に知らせるような工夫をしないと、いくら行政の方が汗かかれましても、その姿が全住民に見えない。ここが問題だと言ってるんです。そこの工夫をしないと空回りに終わるんです。リーダーの方は、自分の夢と希望に基づいて、下に言うか言わんか、言うときもどこまで言うか全部彼らの裁量に任されます。具体的な例で言いますと、他都市の例ですが、地元のリーダーは全部言わないで、もめそうな話は曖昧にし、了解だけをもらおうとされる訳です。そうすると、賛成の意思決定しても、中で反対される方たちが、リーダーが十分情報開示しなかったと、後でリーダーを責めるんです。そういう意味で、行政が汗をかいている姿を全住民に知らせるようにしないと、単にホームページじゃだめです。瓦版流すなどの工夫を是非やってください。</p> <p>【地域リーダーの思慮深い行動と、行政によるそのサポート】</p> <p>地域のリーダーは、行政等との話し合いの内容を、無用の混乱を招かないためにも、段階を踏んで地元知らせることがある。しかし、あとになって、『なぜ、即座に公開しなかったのか?』などの、批判にさらされることがある。すなわち、善意に従って熟慮した地域リーダーの行動が責めを負う可能性があるのである。このような結果にならないよう、行政が行う情報公開は、地域のリーダーの助けになるように配慮しなければならない。</p>
<p>渡邊委員長</p>	<p>● 森住委員の話、非常に重たいものがあって、広報をしない状態で、話をまとめて、例えば道路状況がよくなった場合に、その地域にあまり行かないような人から見たら、ゴネ得の道路と写るかもしれないです。非常に悔しい訳ですよ。どれだけ苦労して、調整に調整を重ねて、歩み寄りをやってというのを、その東部の住民に知らせるというより、広く、例えば市の広報版での特集を組むとか、市民全体に知らせるものが1回だったらあまり残りません。2回位あると認知される気もします。森住委員が言ったのは、その地域のリーダーとして立った人間が最終的に足元から追い込まれるということを作ってはならないということです。市役所が配慮することで、かなり防げると思うんです。広報紙で出すときに、言葉に役所が細心の注意を払ったつもりでも、言い回し</p>

吉岡委員	<p>で問題がないかとか、そこは地元のリーダーと事前に擦り合わせが必要かと思 います。そういう葛藤をすると、奈良市全体からも認知されると。左京地区の 方も、それを見ることによって、こういうところまでいってるけど、苦勞して もらってるなという意識になるので、広報の意味は大きいと思います。</p> <p>● 今の森住委員のおっしゃった、非常に重たい話だと思います。地域の住民の 代表として、各地区から連合会長出て来られて、市長に報告がきたから、4月 20日にお願ひされたという段階ですからね。それを広報の形で、住民に次の手 立てを考えるのは、連合会長の承諾がないと、連合会長に対して住民の方は、 もうOKしたのかということになるので、それは避けたほうがいい。ボタンを 掛け違わないようにしたほうがいいと思います。</p>
森住委員	<p>● OKしたかどうかではなく、事実経過だけはきちんと報告したほうが良いと いう意味でいってるんです。</p>
渡邊委員長	<p>● 全くそれを公に知らせないというのはまずいとは思うんですね。只、今の地 元のリーダーが、何やもう受け入れたのかと、地元からそういうふう、いわ れることはないように、そこは記事の中身はかなり気を使って作らないといけ ないんだろうと思いますね。地元からの要求事項は、これとこれとこれでした みたいに行ったらですね、それはそれで地元パッシングですよ。そういうふう にならないように気を付けないといけないうし。今の広報に掲載するというの に対して、他の方、どのように感じられますか。</p>
佐藤委員	<p>● 奈良市報というのがあると思うんですけど。この段階で、この問題の特集を、 バシッと組んでほしいと思いますね。予算を伴うことですが。これだけ各 誌が取り上げて頂いた、この委員会で相当長期間の審議の上で、2つに絞って、 市長に上げた訳ですから。これで、当該地区でないところは、やれやれという ところもあるかもしれませんが。左京の方はヤキモキ。今のままのペースで行っ たら、いつになるんだろう、全然公害調停守られないじゃないかと。やっぱり ペースを上げてもらわないといけないうし。吉岡さんの言われるように、拙 劣なやり方すると、かえってこじらせてどうにもなくなることもあります が、動いていってるということは、はっきり分かるように、きちっと地元代表 の方々とお会いして話をした後、というのは大事なことです。瓦版といわ れたのがいいのかなと思ってたけど、全市民の問題だから、地元だけ出すとい うのはかえっておかしい。全市民的に、今ここまで来てるんだということをお 伝えをするというのは、是非やってほしいですよ。特集組む位の形で広報す るというのがいるんじゃないかと。そして道路問題だけだとだめだと。地域活 性化対策を合わせてというのは、はっきりしてると思うんですよ。それなど は中々簡単に広報に書きづらいかもしれませんが、庁内でもっと練り上げてい く必要があるだろうし、市長も腹を固めて、なるべく積極的に地元に入るよう に、体制をどう作っていくのかということじゃないかなと思います。是非広報 は、この段階で一つ特集を組むように、全市民的に今の局面、奈良市の決意みた</p>

A委員	<p>いなのを表れるようなものを作ってほしいと思いますね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 木津川市ですね、20年9月以降から毎月2頁を組んでるんです。ごみ処理場の移転の問題について、逐一記録されて、伝達されてます。候補地を一カ所に絞ったことに対し、きちっと市民に説明しておられます。例えば般若寺から東の方まで369号線を4車線化という話は、県庁東からの369については市街化区域だから4車線化というのは制度的には可能な形にはなってるんですね。奈良市の財政が裕福で、4車線化、369まで全部やるという話は、恐らく発生しないだろうと思うし、369は旧国道で、県管理です。市がいくら道路部会でやりますとか、4車線化という話をされるということになると、ますます長引くということのはっきりしてるんです。9月に何とかっていう、とてもそんな話じゃないです。4車線化という話はもうすべきじゃないです。奈良市が、財政的に裕福で、全額市がもって4車線化しますという位の、市長の認識でやるならそれでいいかも分かりませんが、道路構造令の考え方としては、交通量が多ければ、1車線の幅を広げて、流れる交通量を増やすという形で、今対応できつつあるんです。それを4車線化というと、違った概念になっちゃうんで、構造令上。だから、道路構造令の改正の世界では、そんな話はないと思いますので、それは充分注意して頂きたいなと思います。
渡邊委員長	<ul style="list-style-type: none"> ● 今、A委員から現実的なできる範囲というのは、こんなもんだという、具体的なお話があったと思います。落とし所で、事務局的には考えてるのかもしれないですが、今すぐにそれを提案できる状態にはない訳なんですよね。 <p>今日は、現在の状況について知らせるべきであるという、そういった強い意見いくつか。木津川という広報に、ごみの焼却施設の移転に関する記事が毎月載るんですね。</p>
A委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 今までの経緯、いわゆる候補地の選定が、最初から委員会作って決定しましたという経過。隣の市は、市民に対して、伝達されておりますので、奈良市もできれば、やって頂きたいと思います。
渡邊委員長	<ul style="list-style-type: none"> ● そこは学ぶところがあると思いますね。そういった形の情報を出すっていうことをお願いしたいと思います。 <p>今日用意していた内容は以上です。次回ですが、5月26日の予定になっております。広報の話ってできますかね？いかがでしょうか。</p>
森住委員	<ul style="list-style-type: none"> ● いけますよ。少なくともホームページとかに載せたのを、編集し直すだけですから、新たな情報を引き出すのと違いますからね。
事務局（吉住）	<ul style="list-style-type: none"> ● 広報は、奈良市の場合、毎月1回発行している市民だより。記事、頁数が多く、情報量も多いということで、特集版ということになれば、1頁か半頁という対応になると思うんです。セッティングしようとするれば、2～3ヶ月先の話です。案として、1頁位で、記事を整理して、今までの経過を特集版として載せてはどうかという、叩き台を次回5月26日のときに、資料はお作りさせて頂こうかと。

佐藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民だよりは、本体でなく折り込みみたいな形で入れられませんの？本体の1頁位じゃパンチ力ないですよ。折り込みでバツとA3表裏くらいのを配ったらいじゃないですか。
事務局（吉住）	<ul style="list-style-type: none"> ● 折り込みがインパクト高いと思うんですが、そうなれば、当該課で印刷・製本費の計上という予算的な話になってきますから。中々難しいですが、折り込みも含めて、考えさせて頂きたいということで。
渡邊委員長	<ul style="list-style-type: none"> ● 重要な節目ですので、そういうことも考えて頂けたらと思います。
田中副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ● どういう処分場にするのかという話ですが、何を議論するかを、委員長なりが整理されるというのも一つだし、奈良市の方も、どう考えていくのか、そろそろ提示していくべきだと思うんです。地元の理解も、そういうことも関係するので、切り離して、道路と活性化だけではだめだと思うんです。どんな施設がどんな考え方でやっていくのか、ビジョンをもっていく必要あると思うので、我々が議論するものですが、奈良市の方も、提案してもらえたらと思うんです。それで我々が考えていく機会も頂きたいと思います。
渡邊委員長	<ul style="list-style-type: none"> ● 5月26日は多分できないと思います。国からの交付金が、中間処理施設を造る費用のうち、かなりの割合占めてたんですが、震災の復興ということで、それ以外に使われる国からの支出が減っていくという噂が流れています。状況がはっきりするのは夏以降ですので、その頃に具体的に何ができるかコンサルタントを交えて、話できたらいいかと思います。特に新しい平成22年竣工位のものですと単価がどんどん下がってまして、その傾向にはさらに拍車がかかるとみえます。中間処理施設自体は、比較的、頑強・シンプルなもの、新規の技術とかよりも、間違いなく動く、そんなに高くないものということになると思います。只、地元活性化、環境教育などは、大事なことです。地元でしっかりするべきだと思いますので、それも含めて、もう暫く時間かかると思いますけれども、具体的な像を造っていきたくい。事務局から提案をしてもらおうというのが、話が具体的に進むので、お願いしたいと思ってます。 <p>次回の5月26日は広報に関する話を話し合いたいと思います。事務局の方、非常にタイトなスケジュールで申し訳ないんですけど、事例案をお示し頂けたらいいかと思います。</p> <p>これでよろしいですか。次回は5月26日木曜日18時です。</p>
渡邊委員長	<ul style="list-style-type: none"> ● 8月4日木曜日に、次々回ですね。今日は田中副委員長からも、貴重な資料をご提出頂きまして、いい勉強の時間が得られたと思いますので、感謝申し上げまして、ここで終わりたいと思います。どうも有り難うございました。
事務局（美馬）	<ul style="list-style-type: none"> ● 委員の皆様方には長時間に渡りご審議頂き有り難うございました。尚、次回の策定委員会は5月26日の開催予定でございます。本日はこれを持ちまして策定委員会を閉会とさせていただきます。